

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 杏林学医
理事長 松田博

杏林大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第(昭和23年法律第205号)12条の3の規定に基づき、平成23年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	443 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	308人	330人	572.8人	看護業務補助	8人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	2人	2人	2.1人	理学療法士	17人	臨床 衛生検査技師	94人
薬剤師	46人	0人	46.0人	作業療法士	6人		0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	18人	検査 その他	0人
助産師	95人	1人	95.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,269人	5人	1,272.9人	臨床工学技士	25人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	3人	0人	3.0人	栄養士	0人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	0人	0人	0.0人	歯科技工士	0人	事務職員	90人
管理栄養士	11人	1人	11.9人	診療放射線技師	56人	その他の職員	7人

- (注) 1 報告を行う当該年度10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	823 人	0 人	823 人
1日当たり平均外来患者数	2,151 人	19 人	2,170 人
1日当たり平均調剤数	1,823 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間実外来診療日で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板に係るものに限る。)	6人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	0人
前眼部三次元画像解析	4人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 その他の高度の医療

医療技術名	大動脈瘤ステントグラフト移植術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ハイリスクの胸部または腹部大動脈瘤症例に対し、カテーテル法により動脈内にステントグラフトを留置し、瘤破裂の予防			
医療技術名	胸部大動脈瘤手術時オープンステント	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 下行大動脈に及ぶ弓部大動脈瘤置換術において、術野用ステントグラフトを末梢側に挿入し、深部での末梢吻合を省略して、侵襲の軽減を行う。			
医療技術名	人工血管を使用した血液透析用内シャント	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 血液透析用内シャントは患者の静脈の性状に左右される。適切な静脈がない場合でも最近開発された人工血管を使用することにより、血液透析が円滑に施行されるようになった。			
医療技術名	ウマ・ウシ心膜を用いた大動脈置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 感染症大動脈瘤に対して、人工血管は異物があり感染の再発率も高い。これに代わって、ウマ、ウシ心膜をロール状にして置換術を行うことにより再発を防止する。			
医療技術名	HER 2 IHC (Immunohistochemistry)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 腫瘍細胞の遺伝子異常を免疫組織化学染色法にて観察する。			
医療技術名	HER2 DISH (Dual color In Situ Hybridization)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腫瘍細胞の遺伝子異常をDISH法にて明視野で観察し、スコアリングする。			
医療技術名	HER2 FISH	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 腫瘍細胞の遺伝子異常を蛍光シグナルとして観察する。			
医療技術名	EBER ISH (In Situ Hybridization)	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要 EBウイルス関連疾患(癌や悪性リンパ腫などの血管疾患)におけるEBウイルス感染の検察をする。			
医療技術名	クロナリティ解析	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 腫瘍性か反応性の病変か、転移性か原発性かなどの分子生物学的検索を行う。			
医療技術名	腎臓生検蛍光抗体	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要 免疫グロブリンの抗原の局在部位を蛍光顕微鏡をもちいて観察する。			

3 その他の高度の医療

医療技術名	電子顕微鏡	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 超微細構造の構造異常などを電子顕微鏡をもちいて観察する。			
医療技術名	がん化学放射線療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 切除不能局所進行膵癌に対するS-1放射線療法とゲムシタビン化学療法の併用治療			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肝細胞癌患者を対象としたRAD-001(mTOR阻害薬)による第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胃癌患者を対象としたRAD-001(mTOR阻害薬)による第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肝細胞癌患者を対象としたIMC-1121B(抗VEGFR抗体薬)による第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胃癌患者を対象としたIMC-1121B(抗VEGFR抗体薬)+パクリタキセルによる第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 転移を有する膵癌患者を対象としたAMG 479(抗IGF-1R抗体薬)とゲムシタビン併用による第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 切除不能大腸癌患者を対象としたBAY73-4506による第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 切除不能胆道癌患者を対象としたゲムシタビン+OTS-102(ペプチドワクチン)の第Ⅲ相臨床試験			
医療技術名	がん薬物療法(治験)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 日本人固形癌患者を対象としたONO-7056(RAS阻害薬)の第1相臨床試験			

3 その他の高度の医療

医療技術名	関節エコー	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 関節リウマチの診断に超音波検査を用いる。			
医療技術名	選択的子宮動脈塞栓術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 子宮筋腫とつながっている子宮動脈を閉塞させ、栄養を断つことで子宮筋腫を縮小させる治療法。局所麻酔で大腿部の付け根からカテーテルを挿入、造影剤を注入。血管造影検査を行い放射線透視画面をみながらカテーテルを子宮動脈まで挿入。子宮動脈を閉塞する物質を注入。			
医療技術名	選択的子宮動脈塞栓術(産褥異常出血)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 血管造影にて出血部位の同定出血部位を同定し同動脈を選択的に塞栓し止血。末梢での塞栓が可能のため子宮の血流の減少率が高い。また血管造影により出血部位の同定がしやすいこと、止血が成功した場合は妊孕性の温存が可能かつ手術的な侵襲が回避できる。			
医療技術名	凍結受精卵移植	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要 凍結保護剤を用いて液体窒素で凍結保存した受精卵を使用。母体月経周期の調整や着床に適したホルモン環境を整え、融解後しばらく培養した上で、受精卵の最終的な状態を確認して胚移植を検討したのち移植する。			
医療技術名	顕微授精・胚移植	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 人工授精が出来ない場合や妊娠できなかった場合に卵子と精子を体外に取り出し、体外受精させ受精卵が8細胞くらいに分割した段階で子宮に戻す方法。			
医療技術名	性器脱メッシュ法	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 下がった臓器と膈壁との間に、伸びない素材(高強度のポロプロピレン線維)を入れて壁を作る術式。子宮を温存、膈壁切除もしないので術後に膈の状態が本来の自然な形態復帰。術後のQOLの向上を考慮した手術法。			
医療技術名	先天性心患者に関する超音波検査	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 先天性心患者が疑われる症例に対し、胎児循環器疾患の専門的知識を有する医師チームが確定診断を行う。			
医療技術名	胎児MRI検査	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 胎児期に形態学的早予が疑われる症例に対し超音波に引き行われる。特に頭蓋内、胸腔内疾患に行う。			
医療技術名	胎児胸腔穿刺及び胎児胸腔-羊水腔シヤント造設術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胎児胸水等の胸腔内占拠性病変に対し性状の確認および肺低形成防止の為の治療。			
医療技術名	羊水補充療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 前期破水を疑われる妊娠中期例に対し、妊娠期間の延長と胎児肺低形成予防の為の治療。			

3 その他の高度の医療

医療技術名	後産期異常出血に対する子宮動脈塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 弛緩出血や胎盤遺残例に対し、子宮動脈を塞栓し止血する。			
医療技術名	癒着胎盤例に対する腸骨動脈塞栓バルーン留置下妊娠子宮摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 腸骨動脈にocclusion Balloonを留置後に癒着胎盤例の帝王切開を行い、同時に子宮摘出術を行う。			
医療技術名	習慣性流産に対するヘパリン自己皮下注療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 習慣性流産例にヘパリン自己皮下注法の指導を行い、同時に摘出術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下手術(卵巣嚢腫手術、子宮筋腫、子宮内膜症)	取扱患者数	103人
当該医療技術の概要 仰臥位。腹部に小さな穴を数か所あけ、腹腔内を炭酸ガスで膨らませ術野を確保。穴からは腹腔鏡や器具を挿入し、中の様子をモニターで確認しながら腫瘍のみを摘出。			
医療技術名	子宮鏡下手術(粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープ、卵管疎通術)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 経膈的に子宮の中に内視鏡を入れて、子宮内にできている筋腫やポリープを切除する方法。			
医療技術名	光トポグラフィー	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 大脳に近赤外線をあてて脳の活動状況をリアルタイムで計測する。レビー小体系認知症の患者を中心に少数例検討を行い、同患者の易転倒性との関係を調べた。			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 遷延性肺高血圧症に対する一酸化吸入			
医療技術名	骨髄移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 乳児急性リンパ芽球性白血病に対する骨髄移植			
医療技術名	ICGによるセンチネルリンパ節ナビゲーション手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ラジオアイソトープの代わりにICGという色素を用いることでセンチネルリンパ節を検出する。			
医療技術名	内視鏡粘膜切除による喉頭癌治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 内視鏡を用い、低侵襲に咽頭、喉頭の癌を根治切除する。			

3 その他の高度の医療

医療技術名	顎骨欠損に対して歯科インプラントを用いた咬合再建	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍により生じた顎骨欠損症例に対し、表題の治療を施行。			
医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者に対する心肺蘇生療法として行っている。			
医療技術名	重症肺炎の集学的治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 人工呼吸器管理、CHDF(持続的血液濾過透析)、胃十二指腸動脈より動注療法施行			
医療技術名	骨盤骨折に対する集学的治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 骨盤内血管損傷に対するTAEと創外固定器装着によるDCO			
医療技術名	腹部実質臓器損傷に対するIVR(侵襲的放射線学的治療)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 TAEにより止血し開腹手術を回避、腹部実質臓器の温存を図る			
医療技術名	多発肋骨骨折(flail chest)に対する肋骨固定術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重度の骨折転位を整復し胸郭変形を矯正して固定、同時に胸壁損傷を補強			
医療技術名	重症顔面外傷に対する急性期の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 緊急気道確保(輪状甲状靭帯切開、気管切開を含む)を行い、呼吸の早期安定を図る。			
医療技術名	関節熱量計を応用した重症患者の栄養管理	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 主に重症熱傷患者に応用し適切な栄養管理を施行			
医療技術名	経皮的心肺補強助療法(PCPS)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者や重症心原性ショックに対する心肺蘇生療法として行っている			
医療技術名	重症上部消化管止血に対する内視鏡クリップ止血術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 潰瘍底部の露出血管などの出血部位に内視鏡クリップをかけ止血を図る			

3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的動脈遮断術を利用した重症外傷治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腹腔内や後腹膜腔出血を一時的に制御し、IVRや開腹手術にて止血を図る			
医療技術名	ナビゲーションシステムを併用した経気管支肺生検	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
医療技術名	経気管支肺生検時のOn Site Cytologyの活用	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
医療技術名	末梢小型肺癌に対する積極的肺区域切除	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
医療技術名	血管腫硬化療法	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 血管腫(血管長形)に対して、硬化剤を注入し病変を縮小させる治療。			
医療技術名	シリコンバックを用いた乳房再建	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 乳房再建の際に再建材料としてシリコンインプラントを用いる治療。			
医療技術名	副腎腫瘍	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下副腎摘除術			
医療技術名	腎腫瘍	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下腎摘除術			
医療技術名	腎腫瘍	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下腎部分切除術			
医療技術名	前立腺腫瘍	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下前立腺全摘術			

3 その他の高度の医療

医療技術名	腎盂尿管腫瘍	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下腎尿管全摘術			
医療技術名	腎盂尿管移行部狭窄	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下腎盂形成術			
医療技術名	前立腺肥大症	取扱患者数	67人
当該医療技術の概要 HoLEP			
医療技術名	前立腺肥大症	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 TuEB			
医療技術名	放射性同位元素Sr89:ストロンチウムを用いた癌性疼痛	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 β線(をベータ線)を放出する放射性同位元素Sr89(ストロンチウム)を用いて悪性腫瘍骨転移による疼痛の緩和を目的と			
医療技術名	早期前立腺癌に対する体外的根治強度変調放射線治療	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 前立腺に標的を絞り多方向照射野に対しX線照射線量の強弱をつけ治療を行い副作用を最小限に抑え且つ治療効果向上を目的とする(IMRT法:強度変調放射線療法)			
医療技術名	早期前立腺癌に対する密封小線源を用いた根治的放射線治療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 I125(ヨウ素)密封小線源を前立腺内部に埋没させ照射範囲を限局し副作用を最小限に抑え且つ治療効果向上を目的と			
医療技術名	両総腸骨動脈バルーン閉塞下帝王切開術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 大量出血が予期される帝王切開術前に両側総腸骨動脈をバルーンカテーテルで閉塞し、切開術中の出血量のコントロールを行う手技			
医療技術名	悪性脳腫瘍の化学療法における薬剤耐性関連遺伝子解析	取扱患者数	約100人
当該医療技術の概要 手術中に得られた組織からPCR法などを用いて薬剤耐性関連遺伝子を解析し、腫瘍に対する抗腫瘍薬の感受性を知ることができる。これに基づき抗腫瘍薬を使用することにより、より高い効果を得て、副作用を避けることができる。			
医療技術名	脳腫瘍手術における5アミノレブリン酸とマルチモダリティナビゲーションシステム	取扱患者数	約20人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍の初期治療においては手術が最も一般的であり、摘出率が生命予後に関わる。一般に同手術は境界不明瞭で手術の難易度は高いとされるが5ALAとMRI、PET等を融合させたナビゲーションシステムを使用することにより安全に摘出率を高めることができる。			

3 その他の高度の医療

医療技術名	神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 脳腫瘍治療において放射線治療は一般的な治療であるが、治療後の合併症としてしばしば放射線壊死を伴う。著明な脳浮腫を伴い、神経症状を悪化させるが、ベバシズマブにこの投与にて病態制御を図ることができる。			
医療技術名	巨大脳動脈瘤に対する血行力学的縮小療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 直達手術下の動脈瘤頸部閉塞が困難な血栓化巨大脳動脈瘤に対して、動脈瘤には操作を加えずに流入血液量を減らし、また分枝をバイパス構築ののち近位側閉塞も加えることで流出血液量も減少させることで、高難度病変に対して侵襲度の低い新たな治療を開発し実践している。			
医療技術名	食道静脈瘤硬化療法、食道静脈結紮術	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 食道静脈瘤に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的胃粘膜切除術	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要 胃腫瘍(胃がん、胃腺腫)に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	内視鏡的逆行性膵胆管造影	取扱患者数	475人
当該医療技術の概要 膵管、胆管を造影し、診断する(その後ドレナージなどの治療を行う)			
医療技術名	腹腔鏡下肝生検	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 腹腔鏡にて肝臓を観察、その後針生検を行う。			
医療技術名	肝動脈化学塞栓術	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 肝細胞癌に対する治療栄養血管をつめ、そこから抗がん剤の投与を行う。			
医療技術名	超音波下局所療法(経皮的エタノール局注療法、ラジオ波焼灼療法)	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要 肝細胞癌に対する局所療法			
医療技術名	内視鏡的大腸粘膜切除術	取扱患者数	394人
当該医療技術の概要 大腸腫瘍(大腸がん、大腸腺腫)に対する内視鏡的治療法			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	172人	・膿疱性乾癬	6人
・多発性硬化症	97人	・広範脊柱管狭窄症	1520人
・重症筋無力症	172人	・原発性胆汁性肝硬変	452人
・全身性エリテマトーデス	1901人	・重症急性膵炎	22人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	6人
・再生不良性貧血	125人	・混合性結合組織病	606人
・サルコイドーシス	472人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	10人	・特発性間質性肺炎	42人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	829人	・網膜色素変性症	140人
・特発性血小板減少性紫斑病	121人	・プリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	3人	・肺動脈性肺高血圧症	100人
・潰瘍性大腸炎	283人	・神経線維腫症	12人
・大動脈炎症候群	32人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	3人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	129人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	27人
・脊髄小脳変性症	54人	・ライソゾーム病	人
・クローン病	91人	・副腎白質ジストロフィー	人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	28人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	158人
・悪性関節リウマチ	15人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	571人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	80人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	18人
・後縦靭帯骨化症	86人	・肥大型心筋症	81人
・ハンチントン病	人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	64人	・ミトコンドリア病	30人
・ウェゲナー肉芽腫症	487人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	5人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	人	・黄色靭帯骨化症	62人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	647人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫、又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	概ね1週間に2回 概ね1か月に9回
部 検 の 状 況	部検症例数 38例 / 部検率 4.70%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元又は委託元
人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床試験にむけた評価系の確立	有村 義宏	内科学(I)	千円 200	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
進行性腎障害に関する調査研究	有村 義宏	内科学(I)	千円 1,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	有村 義宏	内科学(I)	千円 2,010	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
マイコプラズマ肺炎のマウスモデルの解析と治療への応用	後藤 元	内科学(I)	千円 1,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ぜん息患者及び未発症成人における気道炎症病態と種々の要因とくに大気汚染との関連に関する調査研究	滝澤 始	内科学(I)	千円 7,590	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ANCA関連腎炎発症における好中球細胞外トラップおよび相補的MPOの役割の解析	駒形 楓	内科学(I)	千円 2,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Densitometryを用いた肺胞蛋白症における高分解能CT所見の意義	石井 晴之	内科学(I)	千円 1,300	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺胞蛋白症の難治化要因の解明と診断、治療、管理の標準化と指針の確立	石井 晴之	内科学(I)	千円 500	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
呼吸器感染症が慢性炎症を増悪させる分子病態の解明:異型肺炎とCOPD	和田 裕雄	内科学(I)	千円 1,700	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
細菌性肺炎で抗G-CSF自己抗体が好中球機能を制御するメカニズムの解析	渡辺 雅人	内科学(I)	千円 1,300	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
個別化医療を目指した難治性循環器疾患である肺動脈性肺高血圧症の遺伝子解析	片岡 雅晴	内科学(II)	千円 1,900	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
2型糖尿病症例におけるシタグリプチンの骨代謝改善作用に関する臨床的検討	石田 均	内科学(III)	千円 1,650	補 委	財団法人地域医学 研究基金助成金
2型糖尿病の発症に果たす膵ラ氏島内マクロファージ浸潤の役割とその分子機構の解明	石田 均	内科学(III)	千円 900	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝がんの新規治療法に関する研究	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 2,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 1,000	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗悪性腫瘍薬による肝炎ウイルス再活性化の調査とその対応に関する研究	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 250	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
進行肝胆膵がんの治療法に関する研究	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 120	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 500	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
創薬化を目指したglypican-3由来がんペプチドワクチン療法のエビデンス創出のための臨床試験	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 500	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
杏林大学におけるがん研究基盤の形成	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 15,000	補 委 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究	古瀬 純司	内科学 (腫瘍科)	千円 9,836	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究	長島 文夫	高齢医学	千円 7,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
運動器の不安定性に関与する姿勢と中枢制御機能に着目した転倒予防ガイドライン策定研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 3,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
加齢・認知度における脳皮質下病変の危険因子とその臨床的意義に関する縦断研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,500	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療開発費
漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証-プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験-	神崎 恒一	高齢医学	千円 600	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
高齢者における加齢性筋肉減弱現象(サルコペニア)に関する予防対策確立のための包括的研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,450	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
高齢者に対する適切な医療提供に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 500	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
高齢者の慢性疾患に伴う低栄養・サルコペニアの評価に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,100	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療開発費
在宅医療支援診療病棟を中心とした地域在宅医療活性化についての検討及び多職種協働による在宅患者への介入の有効性	神崎 恒一	高齢医学	千円 2,000	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療開発費
認知症の包括的ケア提供体制の確立に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 2,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
加齢に伴う血管病変に対するアミノ酸トランスポーター標的療法の探索研究	神崎 恒一	高齢医学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,100		
近赤外線スペクトロスコープを用いた認知症周辺症状の臨床評価	長谷川 浩	高齢医学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			600		
高齢者の認知機能低下に対する、心機能の向上を介した新規治療概念の構築	長谷川 浩	高齢医学	千円	補 委	国立長寿医療研究センター 長寿医療開発費
			1,000		
先天性サイトメガロウイルス感染症対策のための妊婦教育の効果の検討、妊婦・新生児スクリーニング体制の構築及び感染新生児の発症リスク同定に関する研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			600		
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			1,600		
母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			8,800		
感染・炎症による脳室周囲白質軟化症の病態と治療に関する研究	岡 明	小児科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			2,200		
新規糖質ステロイド標的分子GLCCI1の機能解析	楊 國昌	小児科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			700		
ネフローゼの病態における脱ユビキチン化酵素USP40の関与	西堀 由紀野	小児科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,000		
膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			500		
胆道がん切除後補助療法の標準治療確立に関する研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	国立がん研究センター がん研究開発費
			1,000		
難治性膵疾患に関する調査研究	杉山 政則	外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			700		
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	正木 忠彦	外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			1,000		
慢性突発性偽性腸閉塞症の我が国における疫学・診断・治療の実態調査研究	正木 忠彦	外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			500		
QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究	井本 滋	外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			2,400		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の運用と構築	呉屋 朝幸	外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			600		
把持鉗子脱着可能な新規開発内視鏡先端フードを用いたpureな内視鏡的全層切除術の臨床開発	阿部 展次	外科学	千円	補 委	公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団
			500		
膵管分離法とマイクロアレイを用いた大腸癌浸潤部・簇出での浸潤能の解明	小林 敬明	外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,000		
中枢神経系悪性リンパ腫の遺伝子異常解析による病態と治療向上因子の解明	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,700		
急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			700		
包括的脳卒中センターの整備に向けた脳卒中の救急医療に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			700		
未破裂脳動脈瘤の治療の評価技術の開発に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			800		
稀少悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同試験	永根 基雄	脳神経外科学	千円	補 委	国立がん研究センター がん研究開発費
			800		
悪性神経膠腫に対する新規抗EGFR抗体・抗癌剤併用による治療法の開発	永根 基雄	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,000		
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発	永根 基雄	脳神経外科学	千円	補 委	文部科学省 次世代がん研究戦略推進プロジェクト
			1,000		
悪性脳腫瘍幹細胞における薬剤耐性機構の解明と治療への応用	小林 啓一	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,000		
脳白質線維画像の統合による機能的脳治療システムの開発	丸山 啓介	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,100		
悪性神経膠腫におけるIDH遺伝子異常の生物学的意義の解明	田中 雅樹	脳神経外科学	千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
			1,400		
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	市村 正一	整形外科	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			700		
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	市村 正一	整形外科	千円	補 委	厚生労働省 科学研究費補助金
			500		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	望月 一男	整形外科	千円 150	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
エフェクターT細胞と制御性T細胞の皮膚への遊走を調節する因子の解析	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 1,800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 55,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
重症薬疹における制御性T細胞の機能低下を回復させる試み	狩野 葉子	皮膚科学	千円 900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経ペプチドのIgE依存性アレルギー反応に対する調節作用の解析	水川 良子	皮膚科学	千円 1,900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
血漿交換療法の確立のための奏効機序の解明	平原 和久	皮膚科学	千円 1,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
顔面神経麻痺治療用埋め込み型随意筋電誘発機能的筋刺激装置の開発	多久嶋 亮彦	形成外科学	千円 2,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ティッシュエキスパンダーによる乳房再建	多久嶋 亮彦	形成外科学	千円 1,000	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
生体電気インピーダンスを用いた血行動態モニタリングの開発	白石 知大	形成外科学	千円 600	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
皮膚潰瘍に存在する間葉系細胞からの表皮誘導法の開発	白石 知大	形成外科学	千円 3,900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
心房細動が吻合部血管閉塞に及ぼす影響の実験的検討	匂坂 正信	形成外科学	千円 1,100	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
進行性腎障害に関する調査研究	奴田原 紀久雄	泌尿器科学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
先天性白内障の原因究明と診断基準の創生	永本 敏之	眼科学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
レチノイドを用いた眼炎症疾患における視神経、神経網膜保護の試み	慶野 博	眼科学	千円 2,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マイクロアレイを用いたベーチェット病に対する抗TNF- α 抗体治療の作用機序の解析	岡田 アナベル あやめ	眼科学	千円 500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
HMGB-1を介した難治性網膜ぶどう膜炎の炎症制御と網膜保護の可能性	渡邊 交世	眼科学	千円 1,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
蝸牛内完全埋込み型人工コルチ器作製へむけた人工シナプス形成を確立するための研究	増田 正次	耳鼻咽喉科学	千円 2,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
センチネルリンパ節理論による頭頸部癌微小転移の解明と個別的治療法の開発	甲能 直幸	耳鼻咽喉科学	千円 800	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
神経反発因子セマフォリン3Aを用いた斬新で画期的なアレルギー性鼻炎治療の研究	横井 秀格	耳鼻咽喉科学	千円 1,100	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
センチネルリンパ節理論による頭頸部癌微小転移の解明と個別的治療法の開発	永藤 裕	耳鼻咽喉科学	千円 500	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金
ラット神経因性疼痛モデルの完成度評価	森山 久美	耳鼻咽喉科学	千円 500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
JAK2遺伝子スプライシング異常をもつ新規症候群の発症メカニズムの解明	大西 宏明	臨床検査医学	千円 1,500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
片麻痺と運動失調症の三次元書字運動解析－習熟運動と巧緻運動	岡島 康友	リハビリテーション医学	千円 3,100	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳卒中片麻痺者に対する下肢痙縮抑制足底板の標準化と効果の検証	高橋 秀寿	リハビリテーション医学	千円 2,400	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

計 84

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本腎臓学会誌	膜性腎症を合併したMPO-ANCA関連血管炎の1例	有村 義宏	内科学(I)
Clin Exp Nephrol	Dual myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-and antiglomerular basement membrane antibody-positive cases associated with prior pulmonary fibrosis:areport of four cases.	山田 明	内科学(I)
日本透析医会雑誌	福島原発(東京電力)被災による計画停電の透析への影響	山田 明	内科学(I)
臨床体液	SIADHを合併した顕微鏡的多発血管炎の一例	山田 明	内科学(I)
Intern Med	Clinical and radiological features of acute-onset diffuse interstitial lung diseases in patients with rheumatoid arthritis receiving treatment with biological agents: Importance of Pneumocystis pneumonia in Japan revealed by a multicenter study	後藤 元	内科学(I)
Journal of Clinical Oncology	Familial lung adenocarcinoma caused by the EGFR V8431 germ-line mutation	後藤 元	内科学(I)
J Infect Chemother	Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the Japanese Society of Chemotherapy in 2008: general view of the pathogens' antimicrobial susceptibility	後藤 元	内科学(I)
J Infect Chemother	Usefulness of linezolid in the treatment of hospital-acquired pneumonia caused by MRSA: a prospective observational study	後藤 元	内科学(I)
Allergology International	Addition of leukotriene reseptor antagonists to inhaled corticosteroids improved QOL of patients with bronchial asthma surveyed in suburban Tokyo, Japan	後藤 元	内科学(I)
Internal Medicine	Antiretroviral therapy for treatment-naïve chronic HIV-1 infection with an axonal variant of Guillain-Barr syndrome positive for anti-ganglioside antibody: a case report	千葉 厚郎	内科学(I)
Clin Neurophysiol	A-waves in Guillain-Barré syndrome: Correlation with electrophysiological subtypes and antiganglioside antibodies. [Epub ahead of print]	千葉 厚郎	内科学(I)
Translational Research	Erythromycin prevents the pulmonary infection induced by exposure to cigarette smoke	和田 裕雄	内科学(I)
J Hosp Incect	Risk factors for bacteremia attributable to Pseudomonas aeruginosa resistant to imipenem, levofloxacin, or gentamicin	和田 裕雄	内科学(I)
Results in Immunology	Identification of a mechanism for lung inflammation caused by Mycoplasma pneumoniae using a novel mouse model	皿谷 健	内科学(I)
J Clin Oncol	Tumor lysis syndrome and acquired ichthyosis occurring after chemotherapy for lung adenocarcinoma	皿谷 健	内科学(I)
Chest	A 54-year old man with an uncommon cause of left pleural effusion	皿谷 健	内科学(I)
Journal of Cardiovascular Electrophysiology	Heart rate turbulence can predict cardiac mortality following myocardial infarction in patients with diabetes mellitus	三輪 陽介	内科学(II)
Journal of Electrocardiology	Usefulness of heart rate turbulence for predicting cardiac events in patients with nonischemic dilated cardiomyopathy	三輪 陽介	内科学(II)

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
心臓	特発性好酸球増多症候群に合併した無症候性レフレル心内膜炎の1例: 心臓MRIを用いた治療効果の検討.	三輪 陽介	内科学(Ⅱ)
Circulation Journal	Prognostic Value of Cardiac Magnetic Resonance Imaging for Idiopathic Pulmonary Arterial Hypertension Before Initiating Intravenous Prostacyclin Therapy.	片岡 雅晴	内科学(Ⅱ)
Circulation Journal	Platelet level as a new prognostic factor for idiopathic pulmonary arterial hypertension in the era of combination therapy.	片岡 雅晴	内科学(Ⅱ)
Circulation Journal	Impact of first-line sildenafil monotherapy for pulmonary arterial hypertension.	片岡 雅晴	内科学(Ⅱ)
Biochem Biophys Res Commun	Induction of mitochondrial uncoupling enhances VEGF120 but reduces MCP-1 release in mature 3T3-L1 adipocytes: possible regulatory mechanism through endogenous ER stress and AMPK-related pathways.	石田 均	内科学(Ⅲ)
日本臨床栄養学会雑誌	2型糖尿病における骨・ミネラル代謝異常の病態とその分子基盤.	石田 均	内科学(Ⅲ)
糖尿病	1型糖尿病治療の新しい知見—カーボカウントの利点と欠点.	石田 均	内科学(Ⅲ)
Gastric Cancer	Multicenter study of the long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in patients 80 years of age or older	高橋 信一	内科学(Ⅲ)
感染症学会誌	Hypermucoviscosity phenotype of <i>Klebsiella pneumoniae</i> による肝膿瘍・敗血症性肺塞栓症の重症例	高橋 信一	内科学(Ⅲ)
Mucosal Immunol.	Neonatal Fc receptor for IgG (FcRn) expressed in the gastric epithelium regulates bacterial infection in mice	高橋 信一	内科学(Ⅲ)
Progress of Digestive Endoscopy	嚢胞感染を併発し脾穿破した脾仮性嚢胞に保存的治療が奏効した1例	蓮江智彦	内科学(Ⅲ)
癌と化学療法	mFOLFOX6/Bevacizumabによる治療開始後に脾臓が増大しOxaliplatin休薬により脾臓が縮小した大腸癌の2例.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
癌と化学療法	がん合併症の管理. 黄疸の原因とその対応.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Jpn J Clin Oncol.	Multicenter phase II study of gemcitabine and S-1 combination therapy (GS Therapy) in patients with metastatic pancreatic cancer.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Jpn J Clin Oncol.	Multicenter Phase II Study of Gemcitabine and S-1 Combination Therapy (GS Therapy) in Patients With Metastatic Pancreatic Cancer.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Eur J Cancer.	Phase III study of sorafenib after transarterial chemoembolisation in Japanese and Korean patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Eur J Cancer.	Phase III study of sorafenib after transarterial chemoembolisation in Japanese and Korean patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Int J Oncol.	Radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma induces glypican-3 peptide-specific cytotoxic T lymphocytes.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Expert Rev Gastroenterol Hepatol.	Inhibitor of MEK1/2, selumetinib, for biliary tract cancer.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Crit Rev Oncol Hematol.	Lessons from the comparison of two randomized clinical trials using gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Cancer Chemother Pharmacol.	Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Int J Oncol.	Radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma induces glypican-3 peptide-specific cytotoxic T lymphocytes.	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)
Jpn J Clin Oncol.	Phase I/II study of FOLFIRI in Japanese patients with advanced colorectal cancer.	長島 文夫	内科学(腫瘍科)
Drug Metab Dispos	Delayed elimination of SN-38 in cancer patients with severe renal failure.	長島 文夫	内科学(腫瘍科)
Pharmacogenomics	Gender-specific genomic profiling in metastatic colorectal cancer patients treated with 5-fluorouracil and oxaliplatin.	長島 文夫	内科学(腫瘍科)
Geriatr Gerontol Int	Plasma sex hormone levels and mortality in disabled older men and women	神崎 恒一	高齢医学
Geriatr Gerontol Int	Relationship between interleukin-6 and cerebral deep white matter and periventricular hyperintensity in elderly women	神崎 恒一	高齢医学
Clinical Neurophysiology	Low-frequency right prefrontal transcranial magnetic stimulation in treatment-resistant depression and changes in regional cerebral blood flow.	鬼頭 伸輔	精神神経科学
Psychiatry and Clinical Neurosciences	Cerebral blood flow in the ventromedial prefrontal cortex correlates with treatment response to low-frequency right prefrontal repetitive transcranial magnetic stimulation in the treatment of depression.	鬼頭 伸輔	精神神経科学
臨床精神医学	思春期・青年期の精神病理における内因性 —緩やかな強度をめぐる—	田中 伸一郎	精神神経科学
Brain Dev. 2011;33;353-6	Interstitial deletion of 13q14.13-q32.3 presenting with Arima syndrome and bilateral retinoblastoma.	岡 明	小児科学
BMJ Open. 2011;1:e000118	Screening for congenital cytomegalovirus infection using newborn urine samples collected on filter paper: feasibility and outcomes from a multicentre study.	岡 明	小児科学
LABORATORY INVESTIGATION	mTORC1 activation triggers the unfolded protein response in podocytes and leads to nephrotic syndrome.	楊 國昌	小児科学
LABORATORY INVESTIGATION	Role of Amino Acid Transporter LAT2 in the Activation of mTORC1 Pathway and the Pathogenesis of Crescentic Glomerulonephritis.	楊 國昌	小児科学
JOURNAL OF THE AMERICAN SOCIETY OF NEPHROLOGY	Glioc1 deficiency leads to proteinuria.	西堀 由起野	小児科学
Acta Radiologica	Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging in Differentiating the Invasiveness of Small Lung Adenocarcinoma.	田中 良太	外科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE	Serum cytokine profiles in patients with prostate carcinoma	田中 良太	外科学
J Med Microbiol	Molecular epidemiological study of human rhinovirus species ABCs from patients with acute respiratory illnesses in Japan	田中 良太	外科学
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Does postoperative serum interleukin-6 influence early recurrence after curative pulmonary resection of lung cancer?	呉屋 朝幸	外科学
Ann Thorac Surg	Is there a role for pulmonary metastasectomy with a curative intent in patients with metastatic urinary transitional cell carcinoma?	呉屋 朝幸	外科学
Asian Pac J Cancer Prev	Prevention of Mammary Carcinogenesis in C3H/OuJ Mice by Green Tea and Tamoxifen.	井本 滋	外科学
Breast	Radiofrequency ablation of early breast cancer followed by delayed surgical resection – A promising alternative to breast-conserving surgery.	井本 滋	外科学
Breast Cancer	Paradigm shift in axilla surgery for breast cancer patients treated with sentinel node biopsy	井本 滋	外科学
Cancer Sci	Outcomes of Japanese breast cancer patients treated with pre- and post-operative anastrozole or tamoxifen.	井本 滋	外科学
Gastrointest Endosc	Long-term outcomes of combination of endoscopic submucosal dissection and laparoscopic lymph node dissection without gastrectomy for early gastric cancer patients who have a potential risk of lymph node metastasis.	阿部 展次	外科学
Gastric Cancer	Multicenter study of the long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in patients 80 years of age or older.	阿部 展次	外科学
J Hepatobiliary Pancreat Sci	Single-incision multiport laparoendoscopic surgery using a newly developed short-type flexible endoscope: a combined procedure of flexible endoscopic and laparoscopic surgery.	阿部 展次	外科学
Asian Journal of Endoscopic Surgery	Successful treatment of duodenal carcinoid tumor by laparoscopy-assisted endoscopic full-thickness resection with lymphadenectomy.	阿部 展次	外科学
Hepatol Res	Predictive factors for cholangiocarcinoma associated with hepatolithiasis determined on the basis of Japanese multicenter study.	鈴木 裕	外科学
Lung Cancer	Abnormality of the hepatocyte growth factor/MET pathway in pulmonary adenocarcinogenesis	橘 啓盛	外科学
脳神経外科ジャーナル	小型の無症候性未破裂脳動脈瘤に対する治療適応と外科治療の現状	塩川 芳昭	脳神経外科学
脳神経外科ジャーナル	削開可能な頭蓋底骨モデルを用いた頭蓋底外科手術練習用モデルの作製方法	塩川 芳昭	脳神経外科学
J Clin Oncol 29	Predictive value of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab.	永根 基雄	脳神経外科学
Heart Surgery Forum	How to do it: Proximal Elephant Trunk Insertion Technique for Preventing Stroke during Replacement of the Descending Aorta through a Left Thoracotomy	窪田 博	心臓血管外科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
BMC Musculoskeletal Disorders	D-dimer levels as a prognostic factor for determining oncological outcomes in musculoskeletal sarcoma.	森井 健司	整形外科
J Orthop Sci	Surgical site infection in malignant soft tissue tumors.	森井 健司	整形外科
J Orthop Biomat	片開式頸部脊柱管拡大術におけるHAスペーサーと蝶番部の骨癒合のCT評価	高橋 雅人	整形外科
骨折	高エネルギー外傷による小児大腿骨骨折に対する創外固定の治療経験	丸野 秀人	整形外科
関東整形災害外科学会雑誌	多発した巨大geodesを伴った両側TKAを行った1例	水谷 顕人	整形外科
Hum Mol Genet	Genome-wide association study identifies HLA-A*3101 allele as a genetic risk factor for carbamazepine-induced cutaneous adverse drug reactions in Japanese population	塩原 哲夫	皮膚科学
Current Problems in Dermatology	Defective sweating responses in atopic dermatitis	塩原 哲夫	皮膚科学
Dermatology	Lichen planus and lichenoid dermatoses	塩原 哲夫	皮膚科学
Current Problems in Dermatology	Increased susceptibility to cutaneous viral infections in atopic dermatitis: the roles of regulatory T cells and innate immune defects.	塩原 哲夫	皮膚科学
Asian Skin and Skin Diseases	Drug-induced hypersensitivity syndrome	塩原 哲夫	皮膚科学
Adverse cutaneous drug eruptions Curr Probl Dermatol	Review. Drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS): Recent advances in the diagnosis, pathogenesis and management	塩原 哲夫	皮膚科学
Adverse cutaneous drug eruptions Curr Probl Dermatol	Fixed drug eruption: The dark side of activation of intraepidermal CD8 ⁺ T cells uniquely specialized to mediate protective immunity	塩原 哲夫	皮膚科学
Eur J Dermatol	Relationship between cytomegalovirus reactivation and dermatomyositis	狩野 葉子	皮膚科学
Acta Derm Venereol	Herpes zoster in patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/DRESS	狩野 葉子	皮膚科学
日皮会誌	苔癬型組織反応における汗腺、汗管の病理組織学的検討	水川 良子	皮膚科学
Br J Dermatol	Varicella-zoster virus antigen expression of eccrine gland and duct epithelium in herpes zoster lesions	水川 良子	皮膚科学
Eur J Dermatol	Diffuse large B-cell lymphoma as a sequela of Stevens-Johnson syndrome associated with the increased Epstein-Barr virus load	平原 和久	皮膚科学
Am J Dermatopathol	Cutaneous granulomatous reaction after herpes zoster in drug-induced hypersensitivity syndrome	稲岡 峰幸	皮膚科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
形成外科	下肢難治性潰瘍における足部伝達麻酔法の有用性の検討	倉地 功	形成外科学
Connective Tissue Research	Differential expression of wound fibrotic factors between facial and trunk dermal fibroblasts.	栗田 昌和	形成外科学
Biochemical and Biophysical Research Communications	Cyclic stretch induces upregulation of endothelin-1 with keratinocytes in vitro: possible role in mechanical stress-induced hyperpigmentation.	栗田 昌和	形成外科学
Dermatologic Surgery	Subcutaneous injection of normal saline prevents cutaneous complications of ethanol sclerotherapy for superficial vascular lesions: an experimental study	栗田 昌和	形成外科学
Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery	Features of wound healing shown by fibroblasts obtained from the superficial and deep dermis.	栗田 昌和	形成外科学
Clin J Am Soc Nephrol	Tolvaptan in autosomal dominant polycystic kidney disease: three years' experience.	東原 英二	泌尿器科学
J Endourol	Supine versus prone position during percutaneous nephrolithotomy: a report from the clinical research office of the endourological society percutaneous nephrolithotomy global study	奴田原 紀久雄	泌尿器科学
Acta Ophthalmologica	Quality of image of grating target placed in vitreous of isolated pig eyes photographed through different implanted multifocal intraocular lenses.	井上 真	眼科学
Am J Ophthalmol	Quality of image of grating target placed in model of human eye with corneal aberrations as observed through multifocal intraocular lenses.	井上 真	眼科学
Invest Ophthalmol Vis Sci	Effect of infliximab on gene expression profiling in Behçet's disease.	慶野 博	眼科学
Br J Ophthalmol	Decreased ocular inflammatory attacks and background retinal and disc vascular leakage in patients with Behçet's disease on infliximab therapy.	慶野 博	眼科学
Am J Ophthalmol	Significant correlation between visual acuity and recovery of foveal cone microstructures after macular hole surgery.	伊東 裕二	眼科学
Ophthalmology	Correlation between length of foveal cone outer segment tips line defect and postoperative visual acuity after macular hole closure.	伊東 裕二	眼科学
Acta Ophthalmologica	Bilateral exudative retinal detachment due to retinal pigment epithelial tears successfully treated by vitrectomy and scleral window surgery.	廣田 和成	眼科学
Am J Ophthalmol	Foveal Cone Outer Segment Tips Line and Disruption Artifacts in Spectral-Domain Optical Coherence Tomographic Images of Normal Eyes.	利井 東昇	眼科学
Auris•Nasus•Larynx	Sentinel node biopsy for oral and laryngopharyngeal squamous cell carcinoma: A retrospective study of 177 patients in Japan.	甲能 直幸	耳鼻咽喉科学
日本気管食道科学会会報	摂食嚥下障害に対するPEG導入の適応とPEG離脱について 杏林大学摂食嚥下センターにおける取り組み	唐帆 健浩	耳鼻咽喉科学
日本耳鼻咽喉科学会会報	耳管機能障害に対する人工耳管手術	守田 雅弘	耳鼻咽喉科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本耳鼻咽喉科学会会報	内視鏡下に摘出した非典型的NF2の一部疾患と推察される鼻中隔神経鞘腫	横井 秀格	耳鼻咽喉科学
Auris-Nasus-Larynx	Advanced hypopharyngeal cancer with amyotrophic lateral sclerosis	小柏 靖直	耳鼻咽喉科学
日本耳鼻咽喉科学会会報	航空機操縦者の耳管機能が内耳および中耳に与える影響に関する検討	小柏 靖直	耳鼻咽喉科学
日本耳鼻咽喉科学会会報	5'DNA領域によるpou4f3のマウス有毛細胞内発現調節	増田 正次	耳鼻咽喉科学
Ann Surg Oncol	Feasibility of ICG fluorescence-guided sentinel node biopsy in animal models using the HyperEye Medical System	山内 宏一	耳鼻咽喉科学
J Clin Pathol	Quantitative expression study of four cytokeratins and p63 in squamous cell carcinoma of the tongue: suitability for sentinel node navigation surgery using one-step nucleic acid amplification.	山内 宏一	耳鼻咽喉科学
頭頸部癌	低侵襲と個別化を目指す頸部郭清術 頸部郭清術における個別治療の可能性 センチネルナビゲーション手術の有効性	山内 宏一	耳鼻咽喉科学
頭頸部癌	頭頸部癌扁平上皮癌に対するS-1隔日投与併用放射線治療の検討	永藤 裕	耳鼻咽喉科学
ART WorldWide perspective	子宮内膜間質・上皮相互作用の制御因子 Hand2/IGSIの安全性と手技	岩下 光利	産科婦人科学
周産期医学	妊娠・周産期に関する用語	岩下 光利	産科婦人科学
周産期医学	復旧に向けてー学会からのアプローチ日本産科婦人科学会	岩下 光利	産科婦人科学
東京母性衛生学会誌	当院における母体搬送の調整の実際と今後の課題	岩下 光利	産科婦人科学
Gynecol Oncol.	Side population is increased in paclitaxel-resistant ovarian cancer cell lines regardless of resistance to cisplatin.	小林 陽一	産科婦人科学
Hum Cell	Clinical significance of side population in ovarian cancer cells.	小林 陽一	産科婦人科学
日産婦東京地方部会誌	術前動注科学療法が奏効した腔癌の一例	小林 陽一	産科婦人科学
産と婦	性器結核	松本 浩範	産科婦人科学
超音波医学	産婦人科救急の超音波検査	谷垣 伸治	産科婦人科学
Jpn J Med Ultrasonics	産婦人科救急の超音波検査	谷垣 伸治	産科婦人科学

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
周産期医学	胎盤異常の画像診断	谷垣 伸治	産科婦人科学
産と婦	癒着胎盤に対する帝王切開術	谷垣 伸治	産科婦人科学
日産婦関東連会誌	胸部症状を契機に選択的帝王切開術を施行した肺 高血圧症合併妊娠の1例	谷垣 伸治	産科婦人科学
日産婦東京地方部会誌	出生前診断された血管輪の一例	谷垣 伸治	産科婦人科学
Medical Technology	腹痛の画像診断	谷垣 伸治	産科婦人科学
産と婦	癒着胎盤に対する帝王切開術	谷垣 伸治	産科婦人科学
日産婦東京地方部会誌	妊娠24週で発症した妊娠性胆汁うっ滞の一例	和地 祐一	産科婦人科学
東京産婦会誌	ホルモン産生腫瘍が疑われ腹腔鏡下手術を施行した1例	澁谷 裕美	産科婦人科学
東京産婦会誌	ホルモン産生腫瘍が疑われ腹腔鏡下手術を施行した1例	澁谷 裕美	産科婦人科学
臨床放射線	嗅神経芽細胞腫の治療後に硬膜転移、頸部リンパ 節転移あるいは肺転移を来した3例.	大原 有紗	放射線医学
Magnetic Resonance in Medical Sciences	Whole-heart 3DLate Gadolinium-enhanced MR Imaging:Investigation of Optimal Scan Parameters and Clinical Usefulness	似鳥 俊明	放射線医学
医学教育 第42巻第3号	Current Status of the Clinical Simulation Laboratory at Kyorin University Faculty of Medicine and Affiliated Hospital	富田 泰彦	医学教育学
病院 第70巻第12号	初期臨床研修医に関連したインシデントの傾向と対策	富田 泰彦	医学教育学
全国自治体病院協議会雑誌 第51巻第2号	病院職員向け医療コミュニケーション研修の現状と 課題	富田 泰彦	医学教育学

(注)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 甲能 直幸
管理担当者氏名	医療安全管理室長 高橋 信一 看護部長 道又 元裕、事務部長 中野 利晴 副部長 高戸谷 繁通、野尻 一之、山崎 昭、庶務課長 天良 功、 医事課長 野尻 一之（兼務）、高戸谷 繁通（兼務）、薬剤部長 永井 茂 診療情報管理室長 奴田原 紀久雄、検査部長 渡邊 卓、放射線部長 似鳥 俊明 検査部技師長 大藤 弥穂、放射線技師長 大戸 真喜男、 医学部事務部 部長 黒田 雅夫

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院 期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		関係各部署	入院、外来等については、 一患者一ファイル方式とし、 管理している	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人 事 課		
	高度の医療の提供の実績	医 事 課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医 学 部		
	高度の医療の研修の実績	各 診 療 科		
	閲覧実績	庶 務 課		
	紹介患者に対する医療の提供の実績	地域医療連携室		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶 務 課 薬 剤 部		
	規則 第一 条に 掲げ る体 制の 確保 の状 況 及び 第九 条の 二十 三第 一項	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室			

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理室
		感染症の発症状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室
		医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	薬 剤 部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬 剤 部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬 剤 部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬 剤 部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病 院 管 理 部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨 床 工 学 室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨 床 工 学 室
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨 床 工 学 室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 甲能直幸
閲覧担当者氏名	医療安全管理室長 高橋 信一 看護部長 道又 元裕、 事務部長 中野 利晴 副部長 高戸谷 繁通、野尻 一之、山崎 昭、庶務課長 天良 功 医事課長 野尻 一之(兼務)、高戸谷 繁通(兼務)、薬剤部長 永井 茂 診療情報管理室長 奴田原 紀久雄、検査部長 渡邊 卓、放射線部長 似鳥 俊明 検査部技師長 大藤 弥穂、放射線技師長 大戸 真喜男、 医学部事務部 部長 黒田 雅夫
閲覧の求めに応じる場所	事務部 応接室、病院庶務課 事務室 他

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する

紹介率	52.6%	算定期間	平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	20,508 人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,542 人	
	C : 救急用自動車	8,039 人	
	D : 初診の患者の数	58,353 人	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント講習会 「医薬品の安全管理について」 インシデント事例の報告 ・ リスクマネジメント講演会 「内服薬処方せんの記載に関する安全対策」 ・ 医療安全管理セミナー 「インスリン注射の選択・薬剤管理と投与方法について」 ・ 医療安全管理セミナー 「抗菌薬使用の注意点」 ・ 看護師が行う静脈注射 「薬剤の基礎知識について」 ・ 研修医オリエンテーション 「処方せんの記載方法について」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有)・無 ・ 業務の主な内容： <p>手順書に基づく業務の実施状況については、「実施確認チェック表」を使用して部署別リスクマネージャーが実施確認を行い、それを医薬品安全管理責任者が確認し、問題がある場合は個別に対応して手順書に基づく業務の実施について周知している。</p> <p>一部改訂 (H23.6.27)</p> 	
④ 医薬品の安全使用のための必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 抗凝固薬など手術前の休薬期間が必要な医薬品の目安について、各科統一の改訂版を作成し周知した。 ・ 抗がん剤注射薬の調製後中止の事例が数件あったため、実施確認時に医師、看護師の情報伝達の徹底を行うよう周知した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚労省からの「内服薬処方せんの記載方法の標準化に向けた取り組みについて」最近の動向と今後の課題について説明した。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定医療機器に関して年2回以上の計画をたてそれに沿って行っている。 (特定医療機器：人工呼吸器・血液浄化器・除細動器・閉鎖式保育器 など) ※新規導入医療機器については、使用方法・不具合の対処等を導入時に診療科もしくは部署単位で実施している (その都度実施) 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (☑・無) ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 機器毎の保守点検マニュアルに沿って、日常点検及び定期点検 	
④ 医療機器の安全使用のための必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付文書・取扱説明書等は、臨床工学室で担当者を決めて保管・管理を行う ・ 安全性情報等は臨床工学室で情報収集し、医療安全管理室・病院管理部と連携する。 ・ 医療機器の不具合情報を入手した場合は速やかに関連部署に連絡し医療機器安全管理責任者・医療機器管理委員長・医療安全管理室に連絡し必要な対応を行う 	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	④・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染防止対策に関する基本的考え方。院内感染防止委員会・ICTの役割。 院内感染防止対策のための職員研修実施の基本方針。院内感染発生時の報告と対策に対する基本方針。指針改定及び閲覧に関する基本方針。他</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>重大な院内感染発生時の原因分析、改善策立案及び職員への周知、院内感染防止委員会・ICTで立案した改善策・指導の実施状況調査と見直し。職員研修の企画実施。</p> <p>(平成 23 年度活動例)</p> <p>耐性菌等の注意すべき細菌 (MRSA、多剤耐性緑膿菌など) 対応マニュアル作成 各種マニュアルの改訂、多剤耐性菌検出時の対応整備、等</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>院内感染防止に関する基本的な考え方。感染症発生時の対応方法。当院及び他の医療機関で発生した事例の原因と改善策。</p> <p>(平成 23 年実施例)</p> <p>抗菌薬使用の注意点、職業感染防止、感染に関する最近の事例、針刺し血液曝露の脅威、冬季に流行する感染症、MRSA を指標とした感染対策のグランドデザイン、他</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (④ ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ICTの病棟巡視による改善策の実施状況の確認及び再評価、院内広報誌での改善策の周知徹底、e-ラーニングによる理解度の確認及び評価、学内LANへの重要な決定事項の掲載、インфекションコントロールマネージャー (各部署の院内感染担当者) を通じた決定事項の伝達と評価</p>	

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・指針の主な内容： 医療安全管理の基本的考え方。リスクマネジメント委員会、医療安全管理室の主な役割、医療安全管理のための職員研修実施の基本方針。事故発生後の対応方針。</p> <p>医療従事者と患者及びその家族等との情報共有の基本方針、他。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容： インシデント事例等の原因分析、改善策立案及び職員への周知。リスクマネジメント委員会で立案した改善策の実施状況調査と見直し。職員研修の企画・実施。</p> <p>(平成 2 3 年度活動例) ; PTP シートの誤飲防止策の立案、気管切開術時の電気メスによる引火を防止するための対策の立案、口頭指示メモの改訂、胸腔ドレーンに関する簡易マニュアルの改訂、ネームバンドの運用の改訂、転倒・転落発生時の対応フローチャートの改訂、入院患者所在不明時の対応の改訂、作業中断を伝える「作業中断中カード」の導入、看護師が行う採血の取り決めの改訂</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 3 回
<p>・研修の主な内容： 医療安全管理に関する基本的な考え方と具体的方策及び職員の責務、当院及び他の医療機関で発生した事例の原因と改善策等</p> <p>(平成 2 3 年度実施例) ; リスクマネジメントの基本、医薬品・医療機器の安全使用について、MRI 実施時の注意点、患者の移乗時(車椅子、ベッド)の注意点、IC の注意点(がん告知、高齢患者、未成年患者への対応、他)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>専任リスクマネージャー・各部署リスクマネージャーの職場巡視による改善策の実施状況の確認及び再評価、インシデントレポートの検討・改善策の立案、院内広報誌での改善策の周知徹底、e-ラーニングによる理解度確認及び評価、医療安全情報(医療機能評価機構)等の伝達、学内 LAN への重要な決定事項の掲載、他。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・所属職員： 専任 (1 1) 名 兼任 (2 7) 名</p> <p>・活動の主な内容： リスクマネジメント委員会で用いられる資料、議事録の作成・保存及び委員会の庶務。事故等に関する診療録・看護記録等の記載内容確認及び指導。事故発生時の患者等への対応状況の確認及び指導。事故等の原因究明の適切な実施の確認及び指導。医療安全に関する連絡・調整、他。</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無